

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業	事業計画期間	平成31年度～平成35年度（5年間）												
事業実施地区名 (都道府県名)	八溝多賀森林計画区 (茨城県)	事業実施主体	関東森林管理局 茨城森林管理署												
事業の概要・目的	<p>本事業は、茨城県北部に位置する、北茨城市、高萩市、日立市、常陸太田市、常陸大宮市及び久慈郡大子町に所在する約3万6千haの国有林を対象としている。</p> <p>本計画区は、久慈川水系の河川等の上流部に位置し、常陸太田市や日立市等下流域の水源地として重要な役割を果たしており、本計画区の国有林の83%が水源涵養又は土砂流出防備等を目的とした保安林に指定されている。</p> <p>本計画区の国有林の人工林は、面積が2万7千haで国有林面積の81%を占め、比較的標高が低く（600m～1,000m）主に中傾斜地又は緩傾斜地に立地し生育条件に恵まれていることから、スギ、ヒノキとも全般に生育が良好である。人工林の齢級^{※1}構成をみると、間伐適期である5齢級から8齢級の林分が2割、9齢級以上の主伐期を迎えている林分が2割となっており、主伐又は間伐を見据えた路網整備や主伐後の確実な更新が必要となっている。</p> <p>また、本計画区の国有林は、花園溪谷や袋田の滝等、豊かな森林景観にも恵まれ、自然探勝、ハイキングなど森林レクリエーション等の保健休養の場としても広く利用されており、本国有林における森林整備を通じた水源涵養、山地保全、林産物の供給等の機能の発揮に加え、保健休養の場の提供に対する期待も高まっている。</p> <p>さらに近年は、地球温暖化に伴う異常気象の頻発等の状況変化もあり、地球温暖化防止等に対する国有林への期待も高まっている。</p> <p>本事業は、こうした背景や期待に応えるべく、国土保全や水源涵養等の森林のもつ公益的機能の維持増進や木材の安定供給体制の構築を目的として、間伐、主伐に伴う確実な更新等の森林整備及びその効果的・効率的な実施のための路網の整備を実施するものである。</p> <p>これまでの評価結果等を踏まえ、森林整備の実施に当たっては、作業効率の向上とコスト削減を図る必要があり、主伐箇所では積極的にコンテナ苗を採用した一貫作業システムを推進するとともに、安全性の高い列状間伐、下刈回数の削減、生産性の向上など、低コスト化に向けた取組を推進している。また、植栽樹種がスギの場合には原則花粉症対策苗に移行することとしている。</p> <p>これらの取組については、国有林が先頭に立ち民有林に波及させる必要があり、地域でリーダーシップを発揮しつつ、本事業を実施する中で素材生産の生産性向上や造林コストの低コスト化の現地検討会を積極的に開催するなど、県、市町等と連携して取り組んでいる。</p> <p>・ 主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>1,270ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>11,075ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>30.7km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>7.9km</td> </tr> </table> <p>・ 総事業費 13,196,995千円（税抜き 12,219,440千円）</p>			森林整備	更新面積	1,270ha		保育面積	11,075ha	路網整備	開設延長	30.7km		改良延長	7.9km
森林整備	更新面積	1,270ha													
	保育面積	11,075ha													
路網整備	開設延長	30.7km													
	改良延長	7.9km													
費用便益分析	<p>総便益（B） 23,433,484千円</p> <p>総費用（C） 15,500,378千円</p> <p>分析結果（B/C） 1.51</p>														
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業の実施は妥当と考える。</p> <p>事業の効率化や生産性の向上につながる取組を民有林に普及させていくことが望まれる。</p>														
評価結果	<p>・ 必要性： 本事業は、森林の有する公益的機能の持続的な発揮に資する事業であるとともに、事業の実施を通じて生産される八溝スギ等の安定供給により地域の林業・木材産業の振興にも寄与するものであることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>・ 効率性： 森林整備では、列状間伐や、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで高効率な作業システムの定着を図ること、また、路網整備では、搬出路（トラック道）がないため林業機械での</p>														

長距離運搬となっている箇所の路網整備を優先することや丈夫で簡易な構造の林業専用道を採用すること等により、コスト削減を図ることとしており、費用便益分析の結果からも事業の効率性が認められる。

- ・有効性： 過密林分で下層植生が衰退傾向の人工林等における間伐等の実施により森林の有する公益的機能が持続的に発揮され、また、整備した路網を活用した木材の安定供給が可能となり、引き続きその効果が発現されると見込まれることから、事業の有効性が認められる。

新規事業採択にあたっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的に評価したところ、森林の重視すべき機能に応じた適切な森林整備及び路網整備が効果的・効率的に計画されているものと認められる。

※1 齢級；森林の年齢。人工林では、苗木を植栽した年を1年生とし、1～5年生を1齢級、6～10年生を2齢級と数える。

様式 1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名 : 森林環境保全整備事業

都道府県名 : 茨城県

施行箇所 : 八溝多賀森林計画区

(単位 : 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	4,806,898	
	流域貯水便益	1,693,306	
	水質浄化便益	4,215,005	
山地保全便益	土砂流出防止便益	4,161,368	
環境保全便益	炭素固定便益	1,776,865	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	1,245,816	
	木材利用増進便益	258,309	
	木材生産確保・増進便益	3,691,910	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	1,584,007	
総便益 (B)		23,433,484	
総費用 (C)		15,500,378	
費用便益比	$B \div C = \frac{23,433,484}{15,500,378} = 1.51$		

森林環境保全整備事業 八溝多賀森林計画区（茨城県） 事業概要図

